

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービス くるむ					公表日	2026年3月27日
		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10			活動がしやすいように整理整頓に気を付けている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10			スタッフ1人に対して子どもが2人以上にならないように配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9			階段があることでバリアフリーとは言えない。	危険箇所には工夫をして安全面に気を付けていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10			定期的に空気の入替えや汚れを見つけると清掃など気を付けている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10			個別対応できるように区切られた空間の準備はしてある。	さらに個別で過ごせる場所の確保を考えていく必要がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10			している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10			保護者と積極的に話をできるように考えている。	個人面談や家庭訪問などを積極的に行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10			連絡を取り合える環境をつくっている。	管理職が気配りを忘れず話しやすい環境をつくっていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0		10	指定のときに、第三者をおかないと記載している。	行う予定はない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10			法律で定められた研修を最優先に受けるようにしている。	関西発達臨床研究所のバックアップ事業所として学びの機会を設けていきたい。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10			している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10			している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	1		児童発達支援管理責任者の資格をもっているスタッフも多く、ともに意見交換して二重チェックで作成している。	多くのスタッフに話を聞き取りながら作り上げていく体制の整備を検討する。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	1		行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	2		きんぎょモデルでアセスメントをとるように研修会を行いたい。	特定のアセスメント方法を決めるのであれば、皆が同じようにできるように研修をしていきたい。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10			まさに、今の課題を見つけれられるように意見交換を密に行うようにしている。	それぞれのカテゴリーに何が値するのかをスタッフが共通理解できるようにしていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10			チームというよりも話の中でどんだんアイデアを出している。	子どもたちが興味を引くような教材教具を研究していきたい。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10			そもそも同じことを繰り返すことが特性であり、繰り返す中での学びを大切に思っているので…	固定化を悪く思えない。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10			行っている。	状況に応じて柔軟に対応できるようにしていく。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10			保護者や学校からの情報を皆で共有している。	落ち着いた環境で打ち合わせができるような環境を提供できるようにしたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3		送迎からそのまま帰宅することが多いので、次の日になることが多いが、緊急性が高いものについてはその日のうちに行っている。	その日のうちにしなければならないこと、次の日でもいいことの棲み分けを行いながら情報共有をしていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10			つなげている。	
	23	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10			行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	9	1		行っている。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10			行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10			参画している。	適材適所で参画者を決めていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	2		整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10			行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	2		移行期に行うようにしている。	対象児童がいるときには行いたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	2		まだ、オープンしてそのような児童を排出できていない。	対象児童がいるときには行いたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10			設けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	0	10		必要を感じていない。	所属校で十分だと考えているためにデイのときくらい好きなことをたっぷりさせてあげたいと考えている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10			している。	複数人で参加していけるような人員配置の工夫が必要。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10			なるべく密にとれるようにと考えているが、捉え方に相違はあるだろうと思う。	個人懇談の頻度を上げていきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10			本年度より開始した。	継続して保護者のニーズに合わせたものを企画していきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	2		入所時に伝えるようにしているが途中で説明することは変更以外ではない。	HUGアプリ上で公開している。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10			重度さんが多いのでほぼ保護者さんの意向となっている。	本人の気持ちを尊重できるようにしていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	3		説明までキッチリは行えていないが、質問があれば丁寧に答えている。	質問をしやすい環境設定を行いたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10			個人懇談や家庭訪問を行っている。	頻度を上げていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0		10	あまり必要性を感じていないが、ニーズがあれば企画したいと思っている。	きょうだい児に対する支援を考えていきたい。事業所には、シプリングサポーターの認定者が在籍している。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10			対応手順が確立されているので迅速に対応できている。	迅速に行えるように皆で方法・手順を理解しておきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	5		個人情報の関係であまり頻繁には行ってはいない。今年は少なかったように感じている。	再度個人情報について聞き取り、療育中の取り組みなどを発信していきたい。

非常時等の対応	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10			留意している。	HUGアプリ上で公開している。アプリの導入はかなり大きい。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10			している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	3		あまり熱心にはやってはいない。	自治会に入会し行事に参加している。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	3		法令で決められている訓練等は確実にやっているが、全利用者が確行っている回数ではない。	HUGアプリで行っていく。情報を公開していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10			行っている。	情報を公開していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10			保護者と連携をとって行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10			指示書の提出をお願いして対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10			行っている。	情報を公開していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10			周知の頻度が低いように感じている。	情報を公開していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10			している。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10			している。	皆で声を掛け合うようにしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10			記載している。	研修を確実に行っていく。	